

令和5年度

「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点20点）

（設問1）

D社の財務諸表を用いて、診断及び助言の基礎となる財務指標を算出する能力を問う問題である。

（設問2）

設問1で算出した財務指標をもとに、D社の財務的問題点とその要因を分析する能力を問う問題である。

第2問（配点30点）

（設問1）

D社の2期間の財務データをもとに原価分解（予測）を行い、損益分岐点売上高を算出したうえで、2期間で損益分岐点比率がどれだけ変動したかを算出する能力を問う問題である。

（設問2）

- (1) D社が扱っている製品について、生産・販売中止の可否の意思決定の知識を用いて、的確な意思決定を行う能力を問う問題である。
- (2) ある製品（X製品）の販売を中止し、需要移動や回避不能固定費がある場合に、現状の営業利益を維持するために必要な他製品（Y製品）の売上高増加額を的確に算定できる能力を問う問題である。

（設問3）

共通費の配賦を売上高で行う場合の会計情報の有用性について、的確な理解を問う問題である。

第3問（配点30点）

（設問1）

将来キャッシュフローの予測情報をもとにしたD社の新規の設備投資プロジェクトの評価と意思決定について、正味現在価値（NPV）の期待値に関する計算能力を問う問題である。

（設問2）

- (1) 当該設備投資において、設備投資の実行タイミングを1年遅らせる場合の正味現在価値を算出する能力を問う問題である。

(2) 投資プロジェクトの前提条件の変更がある場合について、延期オプションの価値に関する理解をもとに意思決定させる問題である。

第4問 (配点20点)

(設問1)

OEM生産の財務的特性について問う問題である。

(設問2)

D社について、新たな製品分野に進出する財務的利点について問う問題である。

以上